

学びのR

No.20 (平成31年3月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

*** 「主体的・対話的で深い学び」で授業改善⑩ *** ～生活科の学習指導の充実～

*今回は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、生活科の授業改善を考えます。

次期学習指導要領において生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、**身近な生活に関わる見方・考え方を生かし**、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す」としています。

生活科における見方・考え方を生かす

「生活科における見方・考え方」とは、「身近な生活に関わる見方・考え方」です。

「身近な生活に関わる見方」

→身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉えること。

「身近な生活に関わる考え方」

→比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること。

生活科における主体的・対話的で深い学び

生活科における「主体的・対話的で深い学び」では、自らの体験を対象として「伝えること」、友達と「意見交換」をすること、学習の足跡を「振り返る」ことなどの表現活動が大切になります。

ミニトマトもナスもキュウリも、どれも花がさいたところにみがあります。べつのやさいもみんなおなじです。でも、つるがのびるのはきゅうりだけです。

伝える学習活動



としょかんは、とってもしずかでした。あさいっても、おひるにいても、おやすみのひにいてもしずかでした。いつもしずかにほんをよむところです。としょかんにいったときは、わたしもしずかにほんをよみたいとおもいます。

☞それぞれの野菜の特徴を関連付け、植物の共通性や多様性に気付く姿

☞共通点や差異点に気付いたり、時間経過の中での変化や変わらないことを発見する姿

意見交換する学習活動

ダイズはさやのなかではおへそとおへそがくっついていて、おへそからえいようをもらっているんだって。



それなら、ダイズのおやはえだで、だいずがそのこどもだね。

なんか、にんげんみたいだね。

☞意見交換において、身の回りの様々な事象を比較したり、分類したり、関連付けたりして自分の考えを広め深めていく姿

振り返る学習活動



まいにちアサガオのおせわをしたので、アサガオが大きくなりました。アサガオといっしょにわたしも大きくなりました

☞植物に対する気付きから自分自身の成長や変容に気付く姿

生活科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、『気付きの質を高める子供の姿』をイメージしていくことがポイントです。

「気付きを質的に高める」

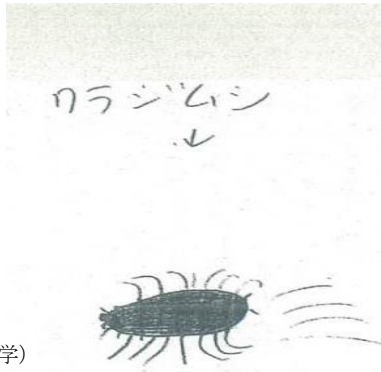


対象への気付きから自分自身への気付きまで高めること

生活科における「深い学び」を考える

～皆さんは、この学習シートにどんなコメントをしますか？～

⑥



(2016 田村 学)

⑤

そのかわりのせが早いので丸くはなりません。

④

ダンゴムシは、でワラジムシはです

③

よこから見るとすぐにおかしく

②

ワラジムシは丸くなりません。

①

ワラジムシは丸くならない！

【例えば、以下のことが読み取れます。】

- ①「！」をつけてタイトルを工夫している。
- ②タイトルと同じことを言っている。まず、結論を述べていることから、児童の強い思いや伝えたいという思いを感じ取ることができる。
- ③この児童は、普段からよく観察し、ワラジムシに触れているからこそ出てくる表現である。
- ④細かな体のつくりを文（言葉）で表現するのは難しいため、低学年らしく、絵や図を使って、ダンゴムシとワラジムシの違いを表現しようとしている。これも一つの工夫と言える。
- ⑤あらためて結論付けている。「ひらたいので」というように、理由や根拠をもとに論理的に説明している。日頃の国語の学習も活かされており、教科等横断的な視点から見ても、児童に身に付けさせたい資質・能力が付いてきていると言える。生活科での学びの充実が学力向上にもつながっていく。
- ⑥左のワラジムシの逃げている絵のおしりのところに線が書いてある。ワラジムシは素早く逃げようとしていることを表現しようとしている。このような、子供の瑞々しい感覚に気付いてあげられるようにしたい。

この児童は、日頃から学習対象であるワラジムシやダンゴムシと深くかかわってきています。そこから生まれる**気付きが質的に高まって**いったことが読み取れます。「小さな生き物でも自分の命を守るために必死なんだな、すごいなあ」という思いが伝わってきます。**繰り返し対象とかかわってきたからこそ生まれた気付き**でもあり、それが**自分自身への気付きにも変わってきた**ところに、生活科としての深い学びが読み取れます。



(児童)
先生、黄色い葉を見つけました。



(教師)
先生は、緑色の葉を見つけましたよ。



(児童)
緑の葉は、これからどんな色に変わるのかな？

(教師)
きれいな色ですね。

(児童)
先生、私は、赤い葉を見つけました。

(児童)
夏に見た時には、みんな緑だったよね。

(児童)
他の色がないかも探してみたいね！
これからも観察を続けようよ！

生活科では、子供の変容を見取り、フィードバックしていくことが、教師として重要な役割となります。

引用・参考「小学校学習指導要領解説 生活編」 文部科学省
「初等教育資料 平成28年12月号」 東洋館出版社
「教室の窓(低学年版) 創刊号、第2号」 東京書籍
「平成30年度埼玉県小・中学校教育課程南部地区説明・協議会配布資料」
「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 編者



「学びのR」
はこちらからも
御覧いただけます！

